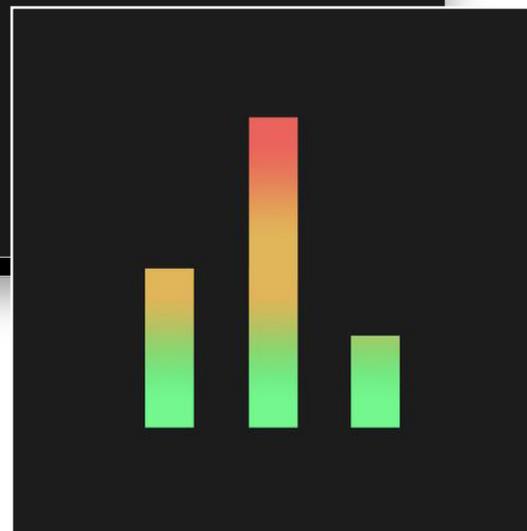
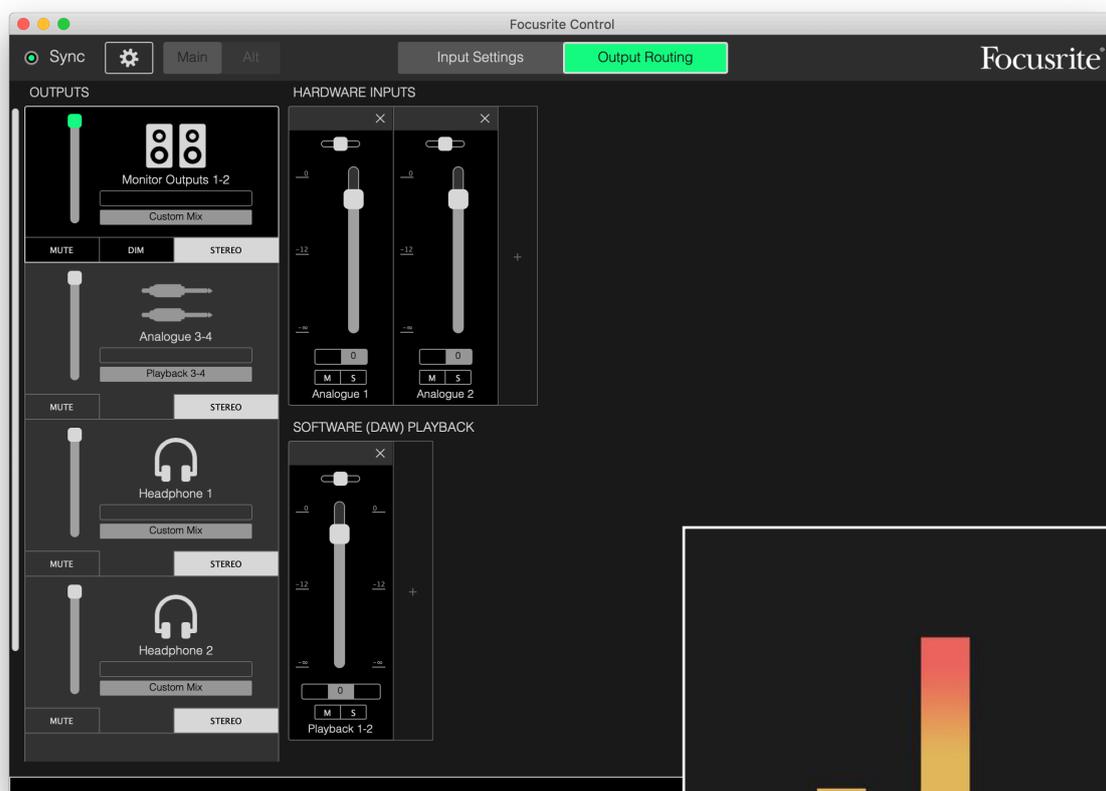


Focusrite Control

ユーザーガイド (Scarlett 第三世代版)



Focusrite®
www.focusrite.com

目次

はじめに	3
システム要件	4
ソフトウェアのインストール	4
Scarlett ミキサー – 基本原理	5
MIXING & ROUTING ページ.....	6
ミキサーの構成とコントロール	7
Output セクション.....	8
Mixer セクション	10
Scarlett で使用できるハードウェア入力	13
出力プリセットの使用	15
ダイレクトルーティング	15
2 チャンネルアナログ.....	19
8 チャンネルアナログ.....	20
デジタル	21
空	21
使用例	22
レコーディングとトラックング	22
スタンドアロンミキサー (8i6、18i8 および 18i20 のみ)	23
Loopback 機能の使用.....	24
スナップショット	25
入力設定	27
Inst/Line	27
Pad	28
Air	28
デバイス設定	29
モニターコントロール	29
スピーカーの切り替え	30
サンプルレート	30
クロックソース	31
デジタル入力	31
トラブルシューティング.....	32
著作権表示と法定通知	32

はじめに

本書は、Focusrite Control のユーザーガイドです。Focusrite Control は、Focusrite Scarlett 第三世代シリーズと併用するために開発されたソフトウェアアプリケーションです。

Scarlett 第三世代インターフェイスを使用する際には、本ユーザーガイドと製品自体のユーザーガイドの両方が必要となります。製品のユーザーガイドは、<http://uk.focusrite.com/downloads> からダウンロードできます。

卓越したオーディオ性能とプロフェッショナルなビルドクオリティを誇る Scarlett とシンプルで直観的なインターフェイスを備えた Focusrite Control をお使いのデジタルオーディオワークステーション (DAW) と一緒に使用することで、非常に多用途なコンピューターレコーディングシステムが実現します。

Focusrite Control は、できる限り直観的かつタスク指向的に操作できるよう設計されていますが、本ガイドをよくお読みいただき、製品と一緒に使用するソフトウェアの特長を十分に理解していただくことで機能を最大限に活かすことができます。

重要

Scarlett インターフェイスシリーズは、いくつかの異なるモデルで構成されますが、すべての製品で Focusrite Control が使用されています。これらのモデルの基本的な違いは、搭載されている入出力の数と Focusrite Control から直接制御できる機能の数です。

Focusrite Control は、お使いのコンピューターに接続されている Scarlett 製品を認識し、それに応じて自動的に構成を行います。このため、お使いのコンピューターに接続されている Scarlett 製品に対応した入出力のみが画面上に表示されます。

自動的に認識するため、本ユーザーガイドは、Scarlett シリーズの全モデルに適用されます。ただし、その主たる適用先は、Scarlett シリーズの中でも Scarlett 4i4 以上の大型のモデルになります (以下も合わせてご覧ください)。複数のモデルのスクリーンショットを本ガイドに掲載すると、混乱を招く恐れがあるため、Scarlett 18i20 を本マニュアルの参考モデルとしています。お使いの Scarlett が 18i20 の場合、本ガイドに掲載されているスクリーンショットとお使いの画面に表示されるものは完全に一致します。別のモデルを使用されている場合、スクリーン表示での大きな違いは、利用可能な入出力とソフトウェア制御機能のみです。

注記: Scarlett 2i2 および Solo ユーザーの方へ

ソフトウェア制御は、上述のモデルに限定されていますが、Focusrite Control のインストールは、48 kHz を超える高いサンプルレートで装置の機能性をフルに引き出すため、またファームウェアの更新を可能にするために依然として必要です。ただし、一般的な操作においては、製品のインターフェイスを使用するために、お使いのコンピューターで Focusrite Control を実行する必要はありません。また、今後新たなソフトウェア制御機能が利用できるようになることがあります。

システム要件

重要

Focusrite Control と Scarlett 全製品に対応するコンピューターとオペレーティングシステムに関する最新の情報は、以下のリンク先をご覧ください:

www.focusrite.com/downloads/os

ソフトウェアのインストール

Scarlett に必要なすべてのソフトウェアおよび複数の強力かつ便利な追加ツールは、Focusrite ウェブサイト (www.focusrite.com/register and www.focusrite.com/downloads) からダウンロードできます。Focusrite Control は、対話型のオンラインセットアッププロセスの一環としてダウンロードできますが、セットアッププロセスでダウンロードしなかった場合は、ダウンロードページからも入手することができます。

オンラインセットアッププロセス時のインストール

購入された Scarlett に初めてアクセスすると (製品のユーザーガイドを参照)、最初は MSD モード状態になっており、オンラインセットアッププロセスのご案内が表示されます。

1. Scarlett をお使いのコンピューターに接続したときに表示される「Scarlett」デバイスをクリックし、**Click here to get started** を選択します。
2. 対話型セットアッププロセスが開始します。
3. **Ok, Let's install the essential software** ページに、Focusrite Control をダウンロードするためのリンクがあります。
4. お使いのコンピューターに対応した Focusrite Control のバージョン (Mac または Windows) をダウンロードしてインストールします。画面の指示に従って、ソフトウェアをインストールします。
5. Windows の場合は、インストール後にコンピューターを再起動してください。
6. その後、以下のメッセージが表示されます:

Your Scarlett is currently in MSD mode (Quick Start). Please click OK to restart your Scarlett and complete the online setup process. (Cancel/OK)

これによって、本製品は MSD モードから移行し、必要に応じてファームウェアを更新できます。

7. オンラインセットアップウェブページに戻ったら、Scarlett セットアップ手順を完了してください。

オンラインセットアッププロセスから独立したインストール

1. focusrite.com/downloads に移動します。
2. このページで、ドロップダウンリストからお使いの製品を選択します (すべての第三世代 Scarlett では、Focusrite Control を使用します)。
3. お使いのコンピューターに対応した Focusrite Control のバージョン (Mac または Windows) をダウンロードしてインストールします。画面の指示に従って、ソフトウェアをインストールします。
4. コンピューターが再起動すると、Focusrite Control によってお使いの製品が正しく識別され、製品内部の設定を制御できるようになるはずです。

本ガイドには、2019 年 6 月の時点で正確な情報が記載されています。ただし、弊社は、カスタマーサービスの向上に常に取り組んでいるため、この手順は変更されることがあります。内容に変更があると思われる場合は、www.focusrite.com/get-started で最新の情報をご確認ください。

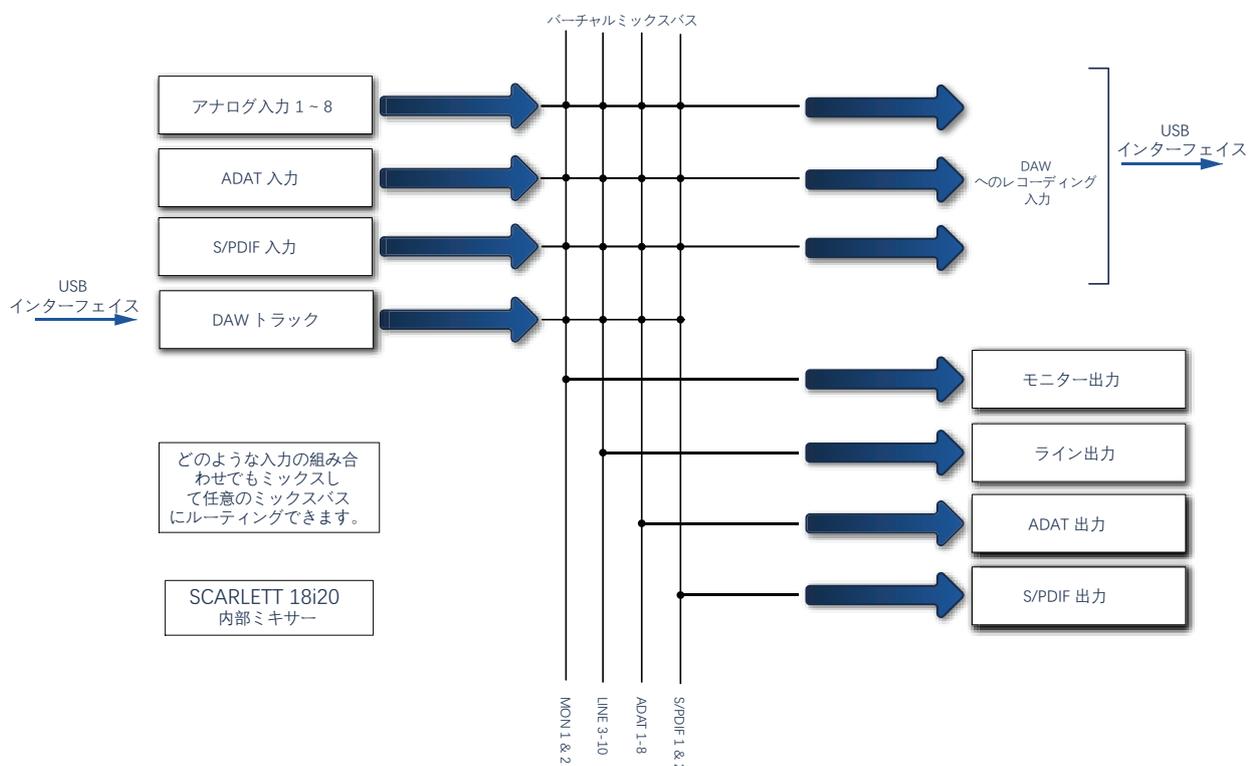
Scarlett ミキサー – 基本原理

Scarlett インターフェイスには、内部オーディオミキサーが搭載されています。このミキサーを使用して、お使いのシステムでさまざまなオーディオ音源のミックスを複数作成できるほか、インターフェイスの物理的な出力部に送ることができます。これらの音源には、お使いの DAW で録音したトラックや Scarlett のさまざまな物理的入力部に接続されている音源も含まれます。Focusrite Control を使い始める前に、このミキサーの基本原則を理解することが重要です。

重要

Scarlett 18i20 の最大同時ミキシング能力は、
24 入力/12 出力です。

注記: このミキサー能力によってモノラルまたはステレオで最大 6 つのカスタムミックスを作成できます。

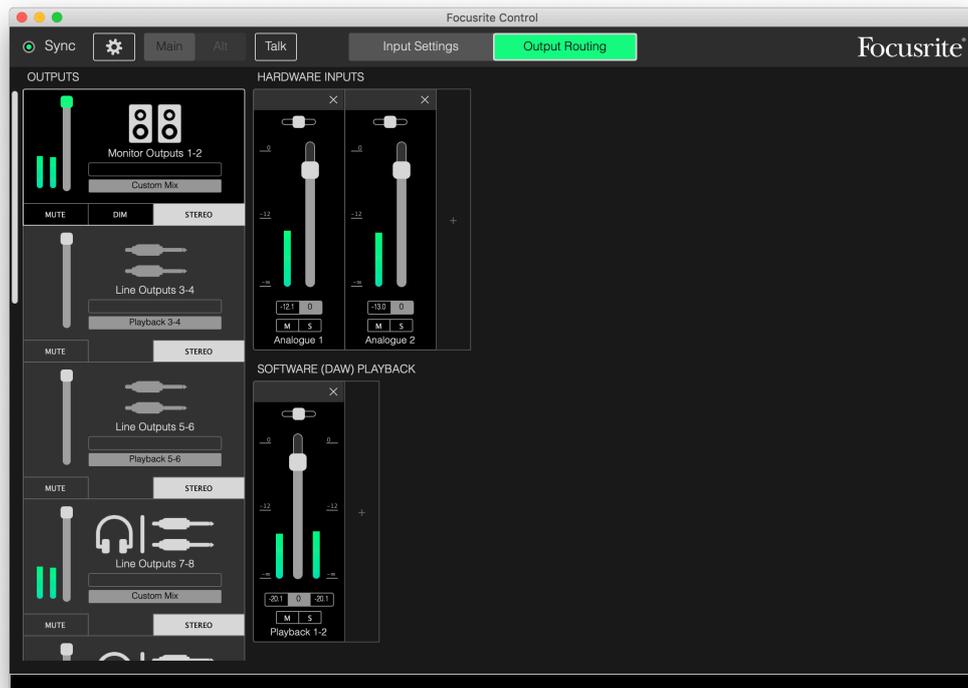


MIXING & ROUTING ページ



お使いのコンピューターに Focusrite Control をインストールすると、デスクトップ (Windows) またはアプリケーションフォルダ (macOS) に FC アイコンが配置されます。このアイコンをクリックして Focusrite Control を起動します。以下のような画面が表示されます:

Click the icon to launch Focusrite Control. You should see a screen similar to that below:



注記:

上記の画面ではなく、「**No Hardware Connected**」という警告メッセージが表示された場合、コンピューターが Scarlett 製品との通信を確立できなかったことを意味します。

この場合は、以下の事項を確認してください:

- USB ケーブルの両端が適切に接続され、ケーブルまたはコネクタのどこにも損傷がないこと。
- Scarlett インターフェイスの電源が入っていること。

画面の左上の **Sync** 'LED' が緑色に点灯していなければなりません。点灯している場合、Scarlett デバイスが有効なクロックソースにロックされていることを表します。詳細については、31 ページを参照してください。

ミキサーの構成とコントロール

注記:

ソフトウェアを効果的に使用していただくために、Focusrite Control ではツールチップを備えています。各種コントロール上にカーソルをかざすと、そのコントロール部が実行する機能がウィンドウ下部のステータスバーに表示されます。

File > Presets > Empty の順にクリックします。その他に利用可能なプリセットとして、あらかじめ用意されたミキサー構成があります。このような構成は、作業を開始する時点で利用すると便利です。ただし、**Empty** を選択すると、「白紙」のテンプレートが読み込まれるため、入力チャンネルは表示されません。



Focusrite Control には、**Input Settings** ページと **Output Routing** ページしかありません。これらのページは、ウィンドウ上部のタブで切り替えられます。また、**Device Settings** ペインもあります。このペインは、ウィンドウの上部にある「歯車」アイコン  をクリックすると表示されます。これについては、本マニュアルの後半で説明します。

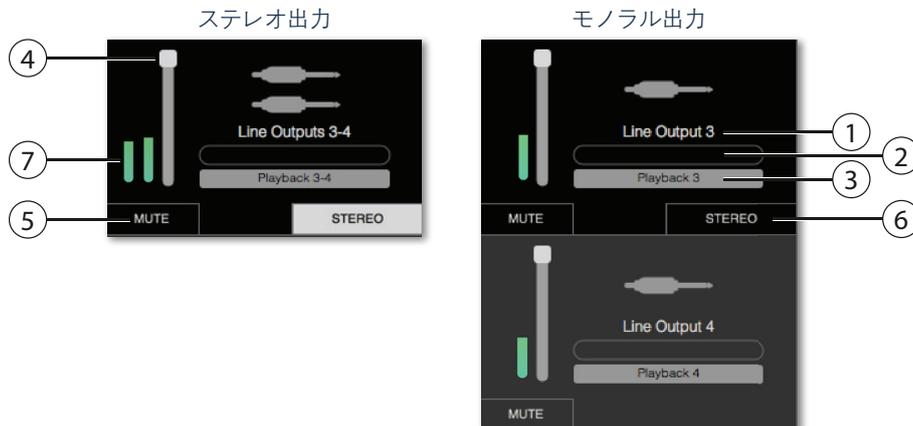
Output Routing ページは、次の 3 つの領域に分かれています:

- **OUTPUTS** は、画面左側に垂直方向に配置されています。
- **HARDWARE INPUTS** は、右側の上半分に配置されています。
- **SOFTWARE (DAW) PLAYBACK** 右側の下半分に配置されています。

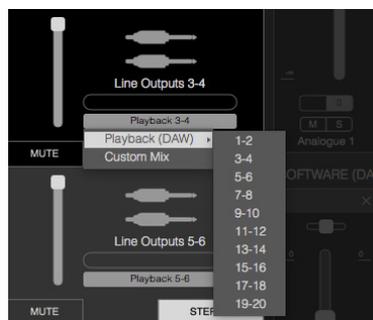
Output セクション

まず、Output セクションから見てみましょう。このセクションは、Output Routing ページが選択されているときは常に表示されています。

OUTPUTS には、垂直のスクロールバーがあります。お使いの製品のインターフェイスに、画面に収まりきれないほど多くの出力がある場合は、下方向にスクロールして他の出力を確認します。各出力 (ステレオモードの場合は出力ペア) には専用のタブがあり、それぞれ以下の機能を備えています。



1. 出力識別子 (**Line Outputs 3-4** など) およびアイコン – 識別しやすいように、出力名とともに、アイコンが表示されます。スピーカー、ヘッドフォンのほか、ジャックプラグ、フオノプラグおよび TOSlink のアイコンが表示されています。
2. カスタム名 – このフィールドをクリックして、最長 11 文字の名前を入力します。
3. 現在の音源 – このフィールドには、現在出力されている信号の名前が表示されます。多くのセットアップで、特に Focusrite Control のプリセットを使用している場合には、デフォルトで一つの入力または一組のステレオペアの入力となります。このフィールドをクリックすると、ドロップダウンリストが表示され、次のいずれかを選択できます:
 - **Playback (DAW)** – DAW トラックを出力にルーティングします (出力がステレオの場合はペア)。Playback (DAW) 1-2 は、ほとんどの DAW やソフトウェアアプリケーション (例: Web ブラウザやメディアアプリケーション) の主要な出力となります。



- **Custom Mix** – 選択した出力に対して利用可能な全ての入力 (ハードウェアと DAW からの入力の両方) を使用して新たなカスタムミックスを作成できます。すべてのカスタムミックスが既に割り当てられている場合にはこのオプションを利用できませんのでご注意ください。

- **Hardware Input** – この出力に直接ルーティングするハードウェア入力を指定できます。
- **Custom Mix + Talkback** (Scarlett 18i20 のみ) – この項目は **Custom Mix** と同じですが、それに加えて、**TALKBACK** がアクティブ化されている場合には、装置内部のマイクをこの出力にルーティングできます。

任意の出力に対する音源の選択を変更すると、ウィンドウの右側にルーティングを示す図が表示されます。1対1のシンプルなルーティングの場合、その図は以下のようになります：



4. フェーダー – これを使用して出力部の信号レベルを調節します。デフォルトではすべての出力レベルが最大に設定されていますのでご注意ください（ユニティゲイン）。フェーダーの「つまみ」が緑色の場合は、出力レベルの制御が、物理的な **MONITOR** 調整つまみに割り当てられていることを示しています。この割り当ては、**Device Settings** ページで行うことができます。29 ページを参照してください。デジタル出力には、フェーダーはありません。
5. **MUTE** – このボタンをクリックして出力のミュート/ミュート解除を行います。
6. **STEREO** – 出力をステレオペアまたは個々のモノラルのいずれかの出力になるように割り当てます。ステレオモードでは、すべての出力機能はステレオペアを形成する両方の出力に適用されます。
7. メーター – 出力のオーディオレベルを示す棒グラフメーター（ステレオ動作用に構成されている場合は2本）を表示します。出力レベルがオーバーロードし、クリッピングが発生すると、赤いオーバーロードアイコンが表示されます。このアイコンは、メーターバー内をクリックすると、非表示にできます。

上記の全ての機能のほかに、Monitor Outputs にはさらに **DIM** ボタンがあります。このボタンは、18i8 および 18i20 の Monitor 調整つまみに割り当てられている出力のみに適用されます。このボタンは、Monitor Outputs の制御が **Device Settings** でフロントパネルのハードウェアの調整つまみに割り当てられている場合のみ利用可能です。アクティブになると、**DIM** によってモニターレベルが低減されます（低減の量は、接続されている Scarlett デバイスによって決まります）。

Mixer セクション

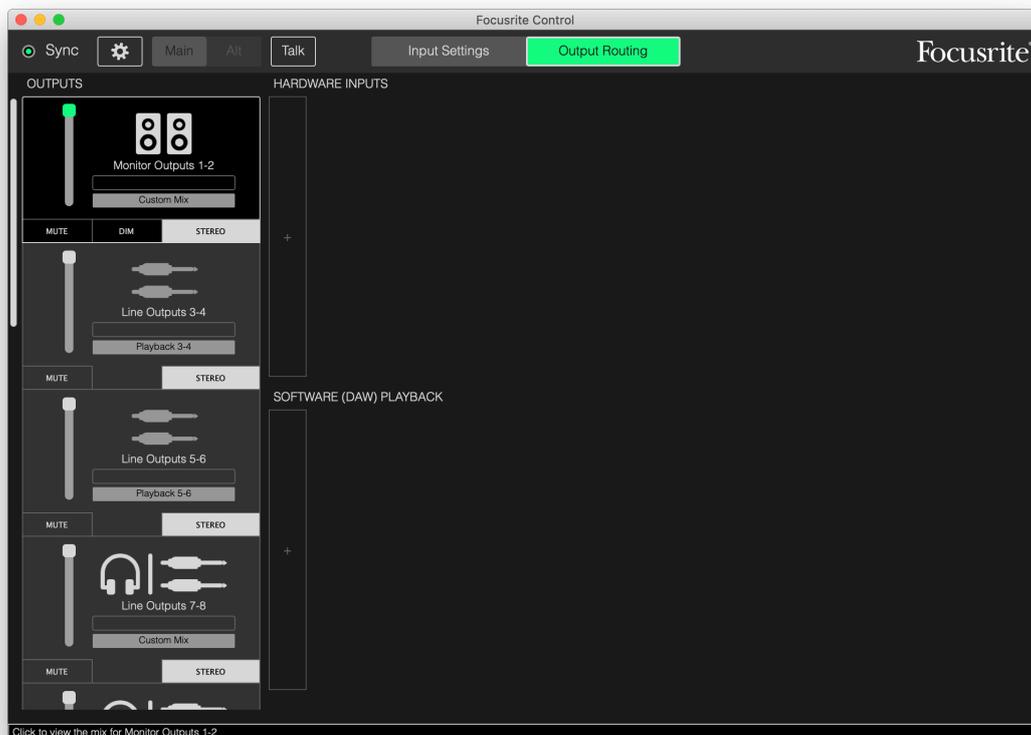
入力セクションは、次の2つの領域に分かれています: **HARDWARE INPUTS** および **SOFTWARE (DAW) PLAYBACK**。Input セクションを二等分するこれらの領域は、選択した出力用のミックスに対する入力を制御する場所です。

それぞれの出力に対して異なるミックスを作成でき、お使いの Scarlett の内部ミキサーで許容される数だけミックスを作成することができます。それぞれの演奏者が個々のニーズに合わせた独自のミックスを作成できるため、この機能は、演奏者のグループをレコーディングする場合に非常に便利です (演奏者に行き渡る数のヘッドフォンおよびヘッドフォンアンプがあることを前提としています)。該当する出力タブをクリックして、入力チャンネルを表示したいミキサーを選択します。

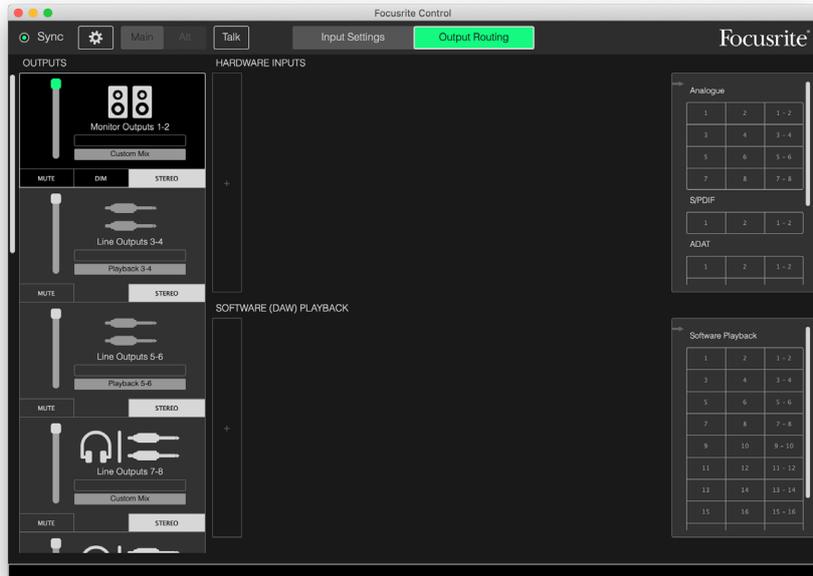
重要

各出力のミキサーを異なる入力セットで構成することはできません。使用中の入力チャンネルのセットは「グローバル」、つまり Scarlett 装置のすべての出力に適用されます。ただし、不要なチャンネルは簡単にミュートにできるため、個別のレベルに設定した個別のミックスを作成することは可能です。

状況によっては、前述の例のようなシンプルで直接的なルーティングを Focusrite Control でセットアップすることが適切な場合もあります。DAW の出力が Scarlett インターフェイスでのハードウェア出力に直接ルーティングされる場合です (装置内でミキシングを行わない場合など)。しかし、多くの場合は、ミックスを個別にセットアップする必要があります。新しいミックスを作成するには、まずミックスを送りたい出力の Output タブで現在の音源のボタンをクリックしてから、**Custom Mix** を選択します。これを行うと、その出力用に現在固定されているルーティングが消去され、Input ミックス領域が表示されます (本マニュアルの最初の手順で **Empty** プリセットを選択した場合、この領域は白紙になっています)。



ここで、2 つの「+」タブをクリックすると、選択した出力を送るミキサーを構成することができます。各タブに選択ボックスが表示されます。入力セクションの半分の **HARDWARE INPUTS** 領域には、Scarlett の物理的な入力がすべて表示されます (お使いの Scarlett デバイスにおいて利用可能なハードウェア入力の詳細については、13 ページを参照してください)。一方、**SOFTWARE (DAW) PLAYBACK** 領域には、選択ボックス内に利用可能な DAW トラックがリストされます。この手順を必要な回数だけ繰り返すことで、お使いの Scarlett ハードウェアの最大許容数までチャンネルを追加できます。チャンネルの数がウィンドウのサイズを超えた場合、ウィンドウのサイズ変更やスクロールバーの使用が必要になることがあります。

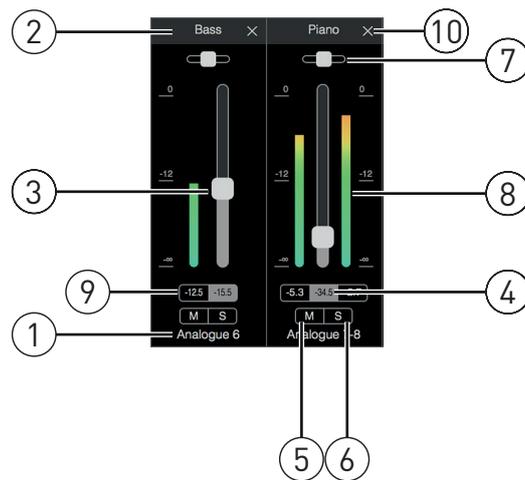


両方のボックス内で、各入力はい個別に(モノラル)、またはステレオペアの片方として2度リストされています。入力のステレオペアを選択すると、ステレオ入力チャンネルが作成されます。



上記の例では、DAW トラックが既にいくつかレコーディングされ、2 つの追加のトラックをレコーディングしようとしており、演奏者の一人に対してステレオフォールドバックをしたいと考えているといったようなオーバーダビングが行なわれています。

各入力チャンネルには、以下の特徴があります:



1. 入力識別子 - チャンネルに対する実際の物理的入力。
2. カスタム名 - このフィールドをクリックして名前 (楽器の名前など) を最長 11 文字で入力します。
3. フェーダー - これを使用してミックスの信号レベルを調節します。すべてのフェーダーのデフォルトの設定は 0 dB で、フェーダーの最大値は +6 dB です。フェーダーのつまみをダブルクリックすると、フェーダーが 0 dB に設定されます。
4. フェーダー値 - 現在のフェーダーの数値を示します。
5. **M** - このボタンをクリックしてチャンネルのミュート/ミュート解除を行います。
6. **S** - ソロボタン。このボタンをクリックすると、その時点で使用されているミックスに代わって、このチャンネルだけを聞くことができます。この機能を使用すると、エンジニアは他のトラックに気を散らすことなく、楽器のレコーディングを行えるため、非常に役立つ機能です。ソロ機能によって他の信号のルーティングが変更されたり、DAW に録音されている信号が妨害されることはありません。
7. パンスライダー。このコントロールは、ミックスがステレオ出力にルーティングされている時のみ利用できます。デフォルトでは中央の位置に設定されており、チャンネルの信号はステレオペアの両方の出力に同じレベルで送られます。スライダーをどちらかの方向に動かすと、一方の信号に対して他方よりも高いレベルの信号を送り、個々の楽器をステレオイメージ上で配置することができるようになります。スライダーのつまみをダブルクリックすると、このコントロールが中央の位置に設定されます。
8. 信号レベルメーター。プリフェードなど、チャンネルに入る信号レベルを示します。dBFS 単位で測定され、最大値は 0 dBFS となります。0 dBFS になると、デジタルクリッピングが生じて不快な音になってしまうため、そのような状況にならないように、必ずここでレベルを調整しなければなりません。ステレオチャンネルでは、フェーダーの両隣に 2 つのメーターが表示されます。
9. ピークレベル表示 - 到達した最大の信号レベルの数値。ステレオチャンネルには、2 つの表示があります。任意の信号がクリッピングレベルに到達すると、**CLIP** が赤で表示されます。この表示を消去するには、その表示上をクリックするか、**File** メニューで **Clear all meters** を選択します。
10. クローズ - バツ印をクリックすると、ミックスから信号を画面からチャンネルを削除できます。

Scarlett で使用できるハードウェア入力

Scarlett インターフェイスは、広範なオーディオ入力を備えていますが、設定されているサンプルレートによって利用可能な入力の数が決まります（詳細については、30 ページを参照）。サンプルレートを 2 倍にすると、利用可能な ADAT チャンネルの数は半分になります。以下の表に、異なるサンプルレートで動作する場合に利用可能な入力の詳細を示します。

44.1 kHz ~ 48 kHz				
入力	Scarlett 18i20	Scarlett 18i8	Scarlett 8i6	Scarlett 4i4
1	Input 1	Input 1	Input 1	Input 1
2	Input 2	Input 2	Input 2	Input 2
3	Input 3	Input 3	Input 3	Input 3
4	Input 4	Input 4	Input 4	Input 4
5	Input 5	Input 5	Input 5	Loopback 1
6	Input 6	Input 6	Input 6	Loopback 2
7	Input 7	Input 7	S/PDIF In 1	
8	Input 8	Input 8	S/PDIF In 2	
9	Loopback 1	S/PDIF In 1	Loopback 1	
10	Loopback 2	S/PDIF In 2	Loopback 2	
11	S/PDIF In 1	Loopback 1		
12	S/PDIF In 2	Loopback 2		
13	ADAT In 1.1	ADAT In 1.1		
14	ADAT In 1.2	ADAT In 1.2		
15	ADAT In 1.3	ADAT In 1.3		
16	ADAT In 1.4	ADAT In 1.4		
17	ADAT In 1.5	ADAT In 1.5		
18	ADAT In 1.6	ADAT In 1.6		
19	ADAT In 1.7	ADAT In 1.7		
20	ADAT In 1.8	ADAT In 1.8		

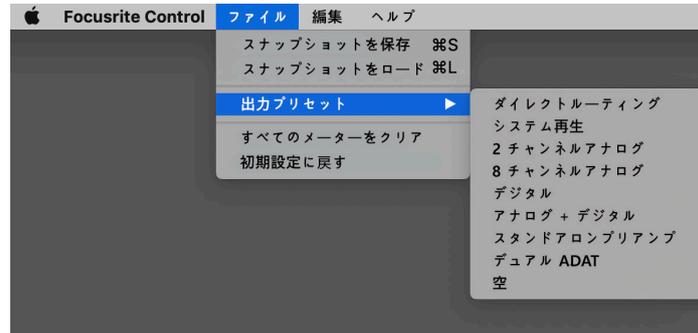
88.2 kHz ~ 96 kHz					
Input	Scarlett 18i20		Scarlett 18i8	Scarlett 8i6	Scarlett 4i4
	ADAT モード	S/PDIF モード			
1	Input 1	Input 1	Input 1	Input 1	Input 1
2	Input 2	Input 2	Input 2	Input 2	Input 2
3	Input 3	Input 3	Input 3	Input 3	Input 3
4	Input 4	Input 4	Input 4	Input 4	Input 4
5	Input 5	Input 5	Input 5	Input 5	Loopback 1
6	Input 6	Input 6	Input 6	Input 6	Loopback 2
7	Input 7	Input 7	Input 7	S/PDIF In 1	
8	Input 8	Input 8	Input 8	S/PDIF In 2	
9	Loopback 1	Loopback 1	S/PDIF In 1	Loopback 1	
10	Loopback 2	Loopback 2	S/PDIF In 2	Loopback 2	
11	ADAT In 1.1	S/PDIF In 1	Loopback 1		
12	ADAT In 1.2	S/PDIF In 2	Loopback 2		
13	ADAT In 1.3	ADAT In 1.1	ADAT In 1.1		
14	ADAT In 1.4	ADAT In 1.2	ADAT In 1.2		
15	ADAT In 2.1	ADAT In 1.3	ADAT In 1.3		
16	ADAT In 2.2	ADAT In 1.4	ADAT In 1.4		
17	ADAT In 2.3				
18	ADAT In 2.4				

176.4 kHz ~ 192 kHz				
Input	Scarlett 18i20	Scarlett 18i8	Scarlett 8i6	Scarlett 4i4
1	Input 1	Input 1	Input 1	Input 1
2	Input 2	Input 2	Input 2	Input 2
3	Input 3	Input 3	Input 3	Input 3
4	Input 4	Input 4	Input 4	Input 4
5	Input 5	Input 5	Input 5	
6	Input 6	Input 6	Input 6	
7	Input 7	Input 7	S/PDIF In 1	
8	Input 8	Input 8	S/PDIF In 2	
9	S/PDIF In 1	S/PDIF In 1		
10	S/PDIF In 2	S/PDIF In 2		

出力プリセットの使用

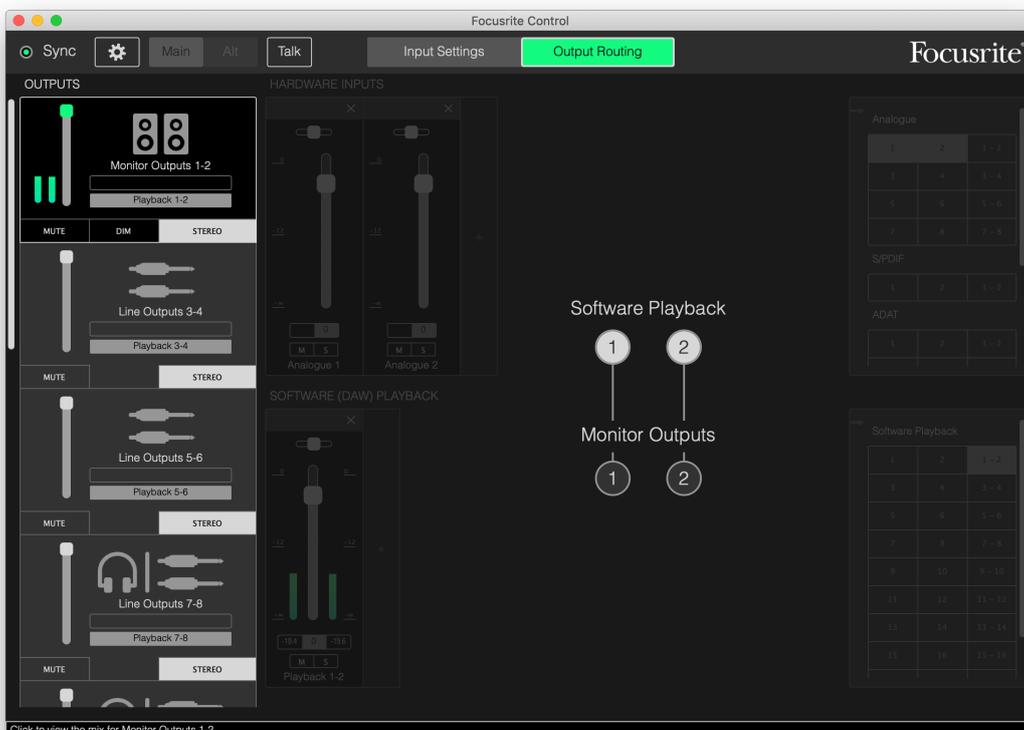
Focusrite Control には、レコーディング作業に素早く取り掛かれるようにするために設計された、便利な出力プリセットがいくつか用意されています。出力プリセットを選択すると、出力ルーティングとミキサーが自動的に構成され、便利な入力チャンネルの各種組み合わせが設定されます。

出力プリセットは、**File** メニューから選択します。ドロップダウンリストから **Output Presets** を選択してください。Scarlett 18i20 で利用可能な Output Presets を以下に示します:



ダイレクトルーティング

複雑なミキシングセッションでは、最終ミックスを実際のミキシングコンソールで個別に行うことが望ましい場合があります。**Direct Routing** 出力プリセットを使用すると、DAW の再生トラックが番号順にすべての使用可能な Scarlett 出力にルーティングされるよう Scarlett が構成されるため、このようなタスクに対応できます。



Scarlett シリーズのダイレクトルーティング接続は以下のとおりです:

44.1 kHz ~ 48 kHz						
DAW トラック	Scarlett 18i20			Scarlett 18i8	Scarlett 8i6	Scarlett 4i4
	S/PDIF	オプティカル S/PDIF	デュアル ADAT			
1	Output 1	Output 1	Output 1	Output 1 (S/PDIF L)	Output 1 (HP 1L)	Output 1
2	Output 2	Output 2	Output 2	Output 2 (S/PDIF R)	Output 2 (HP 1R)	Output 2
3	Output 3	Output 3	Output 3	Output 3	Output 3 (HP 2L)	Output 3 (HP L)
4	Output 4	Output 4	Output 4	Output 4	Output 4 (HP 2R)	Output 4 (HP R)
5	Output 5	Output 5	Output 5	Headphones 1L	S/PDIF Out 1	
6	Output 6	Output 6	Output 6	Headphones 1R	S/PDIF Out 2	
7	Output 7	Output 7	Output 7	Headphones 2L		
8	Output 8	Output 8	Output 8	Headphones 2R		
9	Output 9	Output 9	Output 9			
10	Output 10	Output 10	Output 10			
11	S/PDIF Out 1	S/PDIF Out 1*	S/PDIF Out 1			
12	S/PDIF Out 2	S/PDIF Out 2*	S/PDIF Out 2			
13	ADAT Out 1.1	ADAT Out 1.1	ADAT Out 1.1			
14	ADAT Out 1.2	ADAT Out 1.2	ADAT Out 1.2			
15	ADAT Out 1.3	ADAT Out 1.3	ADAT Out 1.3			
16	ADAT Out 1.4	ADAT Out 1.4	ADAT Out 1.4			
17	ADAT Out 1.5	ADAT Out 1.5	ADAT Out 1.5			
18	ADAT Out 1.6	ADAT Out 1.6	ADAT Out 1.6			
19	ADAT Out 1.7	ADAT Out 1.7	ADAT Out 1.7			
20	ADAT Out 1.8	ADAT Out 1.8	ADAT Out 1.8			

*RCA およびオプティカル

88.2 kHz ~ 96 kHz							
DAW トラ ック	Scarlett 18i20				Scarlett 18i8	Scarlett 8i6	Scarlett 4i4
	S/PDIF	オプティカル S/PDIF	デュアル ADAT	デュアル ADAT 出カプ リセット			
1	Output 1	Output 1	Output 1	Output 1	Output 1 (S/PDIF L)	Output 1 (HP 1L)	Output 1
2	Output 2	Output 2	Output 2	Output 2	Output 2 (S/PDIF R)	Output 2 (HP 1R)	Output 2
3	Output 3	Output 3	Output 3	Output 3	Output 3	Output 3 (HP 2L)	Output 3 (HP L)
4	Output 4	Output 4	Output 4	Output 4	Output 4	Output 4 (HP 2R)	Output 4 (HP R)
5	Output 5	Output 5	Output 5	Output 5	Headphones 1L	S/PDIF Out 1	
6	Output 6	Output 6	Output 6	Output 6	Headphones 1R	S/PDIF Out 2	
7	Output 7	Output 7	Output 7	Output 7	Headphones 2L		
8	Output 8	Output 8	Output 8	Output 8	Headphones 2R		
9	Output 9	Output 9	Output 9	Output 9			
10	Output 10	Output 10	Output 10	Output 10			
11	S/PDIF Out 1	S/PDIF Out 1*	S/PDIF Out 1	ADAT Out 1.1			
12	S/PDIF Out 2	S/PDIF Out 2*	S/PDIF Out 2	ADAT Out 1.2			
13	ADAT Out 1.1	ADAT Out 1.1	ADAT Out 1.1	ADAT Out 1.3			
14	ADAT Out 1.2	ADAT Out 1.2	ADAT Out 1.2	ADAT Out 1.4			
15	ADAT Out 1.3	ADAT Out 1.3	ADAT Out 1.3	ADAT Out 2.1			
16	ADAT Out 1.4	ADAT Out 1.4	ADAT Out 1.4	ADAT Out 2.2			
17			ADAT Out 2.1	ADAT Out 2.3			
18			ADAT Out 2.2	ADAT Out 2.4			

*RCA およびオプテ
イカル

176.4 kHz ~ 192 kHz						
DAW トラック	Scarlett 18i20			Scarlett 18i8	Scarlett 8i6	Scarlett 4i4
	S/PDIF	オプティカル S/PDIF	デュアル ADAT			
1	Output 1	Output 1	Output 1	Output 1 (S/PDIF L)	Output 1 (HP 1L)	Output 1
2	Output 2	Output 2	Output 2	Output 2 (S/PDIF R)	Output 2 (HP 1R)	Output 2
3	Output 3	Output 3	Output 3	Output 3	Output 3 (HP 2L)	Output 3 (HP L)
4	Output 4	Output 4	Output 4	Output 4	Output 4 (HP 2R)	Output 4 (HP R)
5	Output 5	Output 5	Output 5	Headphones 1L	S/PDIF Out 1	
6	Output 6	Output 6	Output 6	Headphones 1R	S/PDIF Out 2	
7	Output 7	Output 7	Output 7	Headphones 2L		
8	Output 8	Output 8	Output 8	Headphones 2R		
9	Output 9	Output 9	Output 9			
10	Output 10	Output 10	Output 10			

従来のアナログコンソールで、出力プリセットを最大限にご活用いただくには、適切な ADAT 搭載の D/A コンバータおよび S/PDIF 入力を備えた 2 チャンネルの D/A コンバータが必要です。ただし、現代のデジタルミキサーの多くはアナログ信号はもちろん ADAT 信号および S/PDIF 信号も直接受けることができます。

2 チャンネルアナログ

これは、Scarlett をアナログレコーディングの「フロントエンド」として使用する際に使用する出力プリセットです。このプリセットでは、Analogue Input 1 と 2 が **HARDWARE INPUTS** として、DAWトラック1と2が **SOFTWARE (DAW) PLAYBACK** セクションにおいてステレオチャンネルとして利用できるように Scarlett のルーティングが構成されます。

たとえば、Scarlett 18i20 では、これらの入力チャンネルの合算された出力が Monitor Output 1 と 2 のほか、Line Output 7 と 8、および 9 と 10 に対して、すべてのケースでステレオペアとしてルーティングされます。このモデルでは、ヘッドフォン出力 1 と 2 は、フロントパネルにあるそれぞれのヘッドフォンレベル調整つまみによってそれぞれ Output 7/8 および 9/10 に従います。このセットアップは、任意のコンピュータドラムトラックにギタリスト一人とボーカリスト一人の音源をレコーディングする際に理想的です。



録音されるトラックの数が増えるため、DAW 再生トラックをミックスに追加します。

その他の Scarlett の出力はすべて、16 ページのダイレクトルーティングの表に従って、対応する DAW 再生トラックから直接供給されます。

8 チャンネルアナログ

バンドのレコーディングを行う際には、この出力プリセットを出発点として使用します。Scarlett 18i20 では、このプリセットにより、ハードウェアのアナログ入力それぞれに対して一つずつ、計 8 つのミキサーチャンネルが使用できます。DAW トラック 1 & 2 も、ステレオチャンネルとして使用できます。



2 チャンネルアナログプリセットについては、合算されたミキサーの出力が、Monitor Out 1 および 2、Line Out 7 ~ 10 にステレオペアとしてルーティングされます。

その他の Scarlett の出力はすべて、16 ページのダイレクトルーティングの表に従って、対応する DAW 再生トラックから直接供給されます。

デジタル

この出力プリセットは、Scarlett OctoPre などの ADAT 搭載のマイクプリアンプを使用する際に便利な出発点となります。Scarlett 18i20 と併せて使用すると、10 個のデジタル入力チャンネルを利用できるようになります。そのうち、8 個は ADAT 入力ポートから、2 個は S/PDIF 入力から供給されます。DAW トラック 1 と 2 も、ステレオチャンネルとして使用できます。前述のアナログプリセットの説明と同様に、合算された入力が同じ出力ペアにルーティングされます。



その他の Scarlett の出力はすべて、16 ページのダイレクトルーティングの表に従って、対応する DAW 再生トラックから直接供給されます。

空

これは、ユーザーが必要に応じて独自の構成を構築できるように、既存の設定をすべて消去する便利な出力プリセットです。

Scarlett 18i20 では、Monitor Out 1 と 2 および Line Outs 7 ~ 10 (ヘッドフォン出力と並列) がカスタムミックスを受信するように設定されます。その他すべての出力は、他のプリセットと同様に個別の DAW トラックから供給されます。

使用例

レコーディングとトラックキング

Focusrite Control を使用すれば、バンドのレコーディングも、ご自身のレコーディングも、そのプロセスは基本的に同じです。唯一の違いは、画面に表示されるミキサーチャンネルの数です。

Scarlett インターフェイスにレコーディングしたい楽器を INST 入力または LINE 入力のいずれかを使用して直接接続し、アコースティック楽器とボーカルは、マイクを MIC 入力に接続して録音します。楽器またはマイクロフォンは、それぞれ USB ケーブルを経由してお使いの DAW にルーティングされます。デフォルトでは、ハードウェア入力と同じ数のトラックに録音されます。Scarlett のフロントパネルにあるゲイン調整つまみを使用して、レコーディングレベルを設定できます。ユーザーのご希望に応じて、DAW でトラックの割り当てを変更することができます。

Focusrite Control 使用して、レコーディングされているすべての音声のモニターミックスを作成することが可能です。モニターまたはヘッドフォンで聞こえるミックスは、レコーディングされる信号レベルからは完全に独立したものにカスタム化することができます。

Focusrite Control のすべてのチャンネルは、フェーダーがゼロの位置で開始されるため、すべての接続が完了するとまずラフミックスを聞くことになります。その後で、ニーズに合わせてミックスを構成することができます。



Direct Routing 以外のどのような出力プリセットを読み込んだ場合にも、ヘッドフォン出力から聞こえるミックスは、メインモニターのミックスと同じものです。ただし、それらは独立しており、個別に制御が可能です。たとえば、演奏者のフォールドバック用にヘッドフォンを使用したい場合、おそらくさまざまなミックスをセットアップする必要があるでしょう。ヘッドフォンの出力タブ (Scarlett 18i20 の例では **Line Out 7 ~ 8**) を選択して、そのミックスを変更するだけでセットアップできます。同じ要領で、さらに Line Out タブを使用して、**Custom Mix** (Scarlett 18i20 の場合は **Custom Mix + Talkback**) を選択するだけで、他の演奏者用に同数の異なるミックスを作成することができます。

スタンドアロンミキサー (8i6、18i8 および 18i20 のみ)

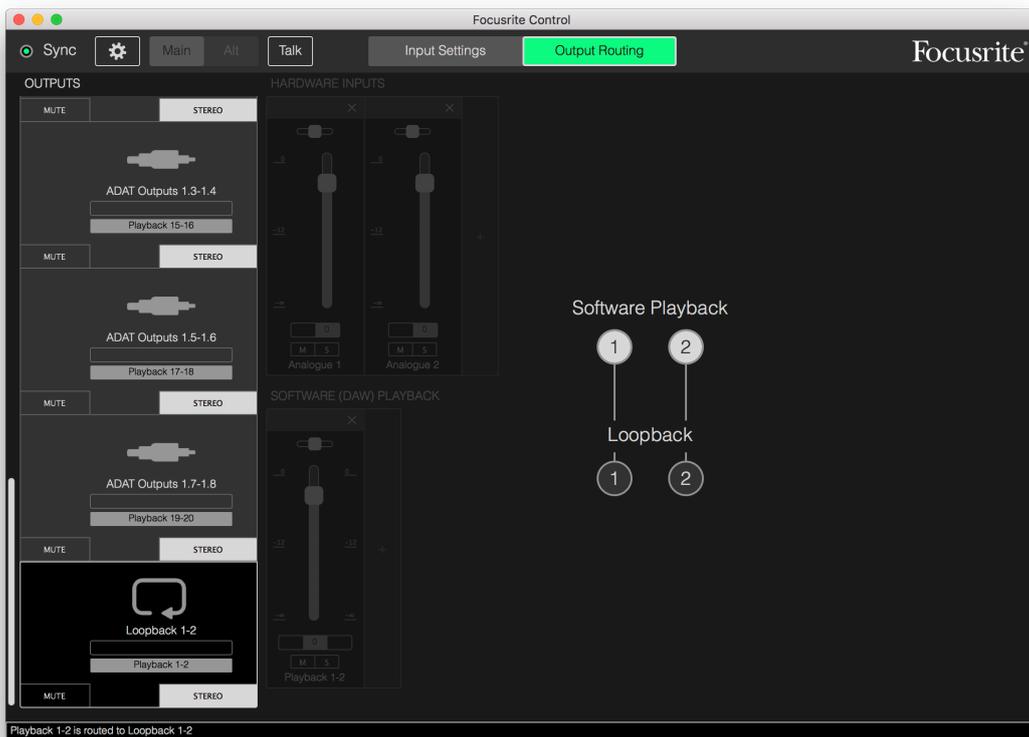
Scarlett の内部ミキサーを Focusrite Control で構成すると、USB ケーブルを抜いて本装置の電源を切っても、構成はハードウェア内に記憶されています。このことは、必ずしもコンピューターに接続しなくても、Scarlett の卓越したアナログ性能をライブ環境で活用できることを意味しています。

このような製品の適用事例には、ステージ上のキーボードミキサーとして使用するケースがあります。複数のキーボードを Scarlett の入力部に接続し、それらの音声をミックスしてから Monitor Output に送ることが可能です。各キーボードの相対的なレベルは、フロントパネルから調整できます。



上に示すセットアップでは、ミキサーを上述のように構成します。Scarlett は、最後の構成を記憶するため、その後一度装置の電源を切っても、会場でスタンドアロン装置としての使用が可能です。

Loopback 機能の使用



Focusrite Control のループバック機能を使用すると、お使いのコンピューター内からの他のオーディオ音源 (例: Web ブラウザからのオーディオ出力) を録音できます。ループバックでは、Scarlett の「仮想的な」入力部を使用します。この入力部は、ハードウェアインターフェイス上に物理的なコネクタを備えていませんが、その他の信号源と同様に DAW 内で信号源として選択することができます。

したがって、モノラルまたはステレオの DAW トラックでループバック出力をレコーディングの音源として選択することで、別のソフトウェアアプリケーションから DAW に録音することが可能です。お使いのコンピューターによって、デフォルトのサウンド出力チャンネルとして DAW 1 および DAW 2 が割り当てられます。

Focusrite Control でのループバックの構成例を以下に示します。

1. Loopback 出力タブで、お使いの DAW にループバックしたいオーディオ音源を選択します。デフォルトは、Playback 1 ~ 2 です。
2. お使いの DAW で、Loopback トラックが有効になっており、録音できる状態であることを確認します。
3. 新しいオーディオトラックを作成します。
4. **重要!** - DAW チャンネルをミュートにしてください。録音しているチャンネルの出力をルーティングして DAW 1 & 2 に戻す場合に、フィードバックループが作成され、お使いのスピーカーを損傷したり、最悪の場合聴覚を損なう恐れがあります。
5. ループバック出力がミュートになっていないことを確認してください。
6. 録音する DAW チャンネルを有効にします。
7. これで、コンピューターで再生される音声 (例: 別個のオーディオ再生プログラムまたはインターネットブラウザからのもの) を DAW にルーティングし、録音する準備ができました。音声を取り込むには、お使いの DAW で録音を選択します。

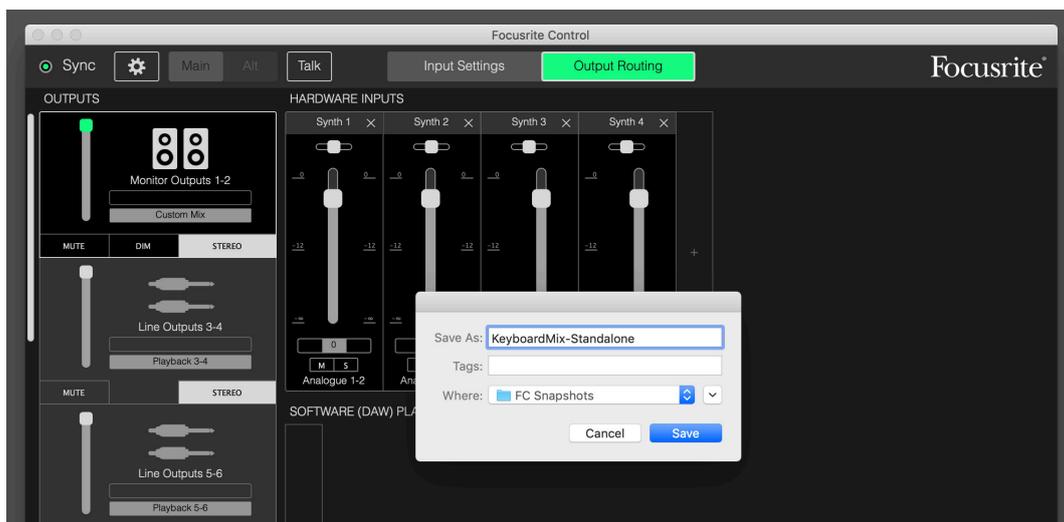
スナップショット

Scarlett インターフェイス内のミキサーは常に、Focusrite Control で行われた最後の設定を記憶します。ただし、似たようなプロジェクトや別の互換性のあるハードウェア機器で作業する場合、後でそれらの作業に戻れるように、セッションの設定を保存したい場合があります。

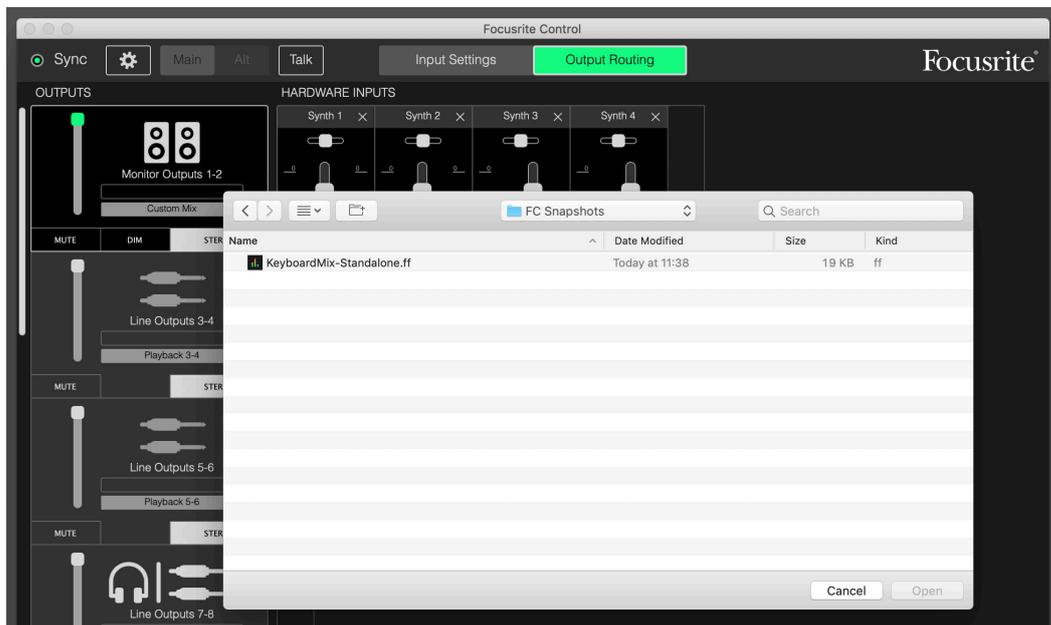
このような目的に対応するために、Focusrite Control はスナップショット機能を搭載しています。この機能では、ミキサー全体の「スナップショット」をお使いのコンピューターに保存し、後で呼び出すことができます。以下の表にスナップショットで保存できる設定の概要を示します：

カスタム名	ミックス名	出力ステレオリンク	モニターのミュート	ハードウェア制御設定
Air in/out	Mix Gain	Output Source	Monitor Dim	S/PDIF 音源
Pad on/off	Mix Pan	Output Mute		デジタル I/O モード
Line/Inst selection	Mix Mute	Output Name		
	Mix Solo	Output Gain		

現在のミキサーの設定を保存するには、**File > Save Snapshot** をクリックします。



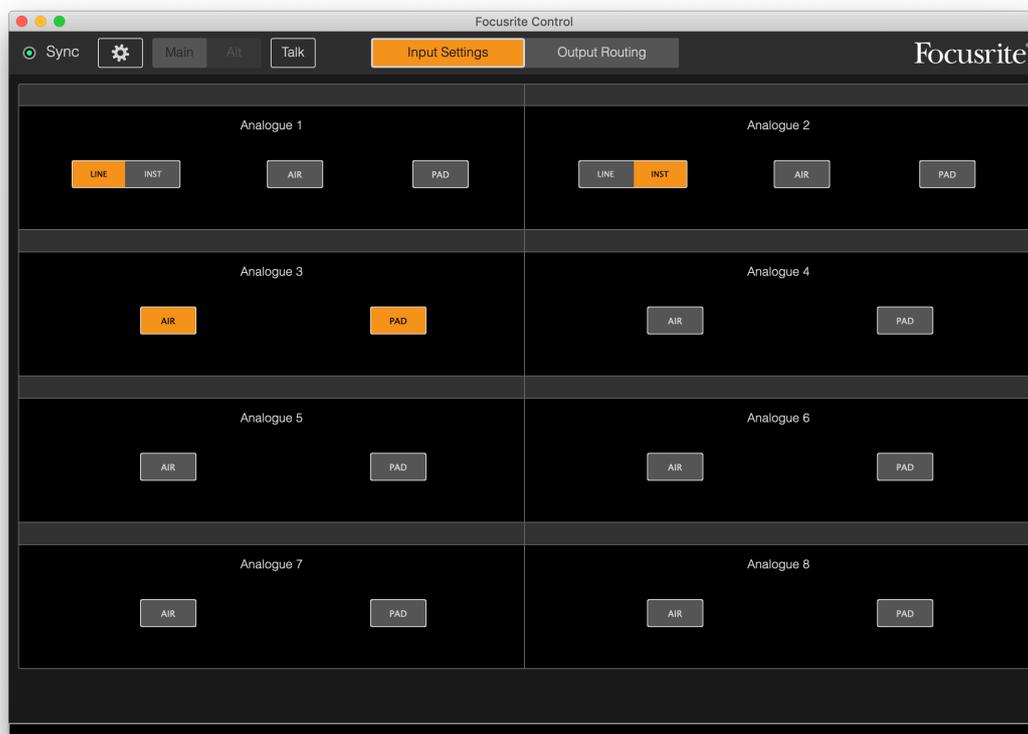
セッションファイルは、*.ff ファイル拡張子で保存されます。セッションを呼び出すには、**File > Load Snapshot** をクリックすると、標準的な File Open ウィンドウが表示されるので、通常の方法でファイルを保存する場所を選択し、開きます。



入力設定

Scarlett インターフェイスには、装置上で行う物理的な操作よりも、Focusrite Control で操作する方が適している機能が多数存在します。

Input Settings をクリックすると、これらの機能にアクセスできます。Scarlett 18i20 では、次のように表示されます：



モデルの異なる Scarlett をお持ちの場合、ほとんどの機能は同じですが、インターフェイスには、ソフトウェアで設定を切り替える必要のあるチャンネルが含まれている場合があります（例：Scarletts 4i4、8i6、18i8 および 18i20 では、ソフトウェア切り替えを使用して、ライン入力や楽器入力を切り替えたり、PAD や AIR モードを選択します）。以降のセクションの 18i8 **Device Settings** ページのスクリーンショットに、その例を示しています。

Inst/Line

お使いのインターフェイスのいくつかのチャンネルは、エレキギターやベースを直接接続する場合に、楽器専用の入力として構成します。これらのチャンネル用に **INST** を選択すると、その入力の 1/4 インチジャック接点が高インピーダンス、アンバランス入りに切り替わり、エレキギター/ベースを直接接続できる構成になります。INST モードの選択は、本装置のフロントパネルの赤色の LED で確認できます。お持ちの Scarlett モデルによっては、装置のフロントパネルからも INST または LINE を選択できます。

これらのチャンネルのスイッチを切り替えると、**LINE** モードになります。このモードでは、標準的なバランスレベル信号に適した入力になります。

INST モードで入力を使用する場合には、2 極 (TS) 1/4 インチジャックを使用し、LINE モードで使用する場合には、3 極 (TRS) 1/4 インチジャックをバランス音源で使用します。

お使いのインターフェイス上のすべてのチャンネルは、ダイナミックマイクやコンデンサーマイクに対応しています。コンボタイプコネクタは、XLR プラグまたはジャックプラグのいずれかを感知し、マイクまたはライン動作のオプリアンプを自動的に認識します。追加の INST 機能を備えたチャンネルは、同じコネクタを使用します。XLR プラグを使用してマイクに接続すると、**INST/LIN** スイッチは無効になります。

Pad

Scarlett インターフェイス (モデルに依存) の一部のチャンネルは、PAD 機能を搭載しています。選択すると、お使いの DAW に送られる信号レベルが 10 dB 低減します。音源の出力レベルが特に高く、最小ゲインであっても、クリッピングまたはゲイン Halo が赤に変化している場合に有効な機能です。Scarlett 18i20 では、フロントパネルからも PAD を選択できます。PAD 機能を搭載した各チャンネルは、緑色の LED を備えており、**PAD** がアクティブになると点灯します。

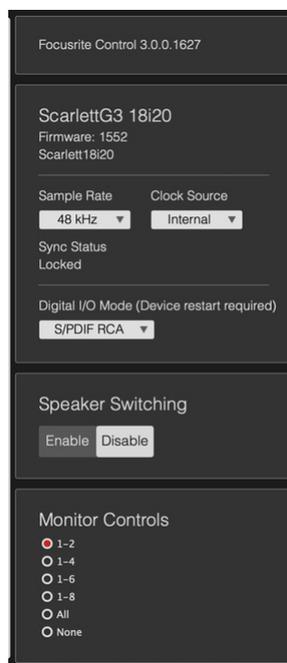
Air

すべての第三世代の Scarlett インターフェイスの重要な機能は、Focusrite 独自の AIR 機能です。AIR を使用すると、プリアンプの周波数特性をすべてのマイクチャンネルで個々に選択して微修正し、伝統的なトランスフォーマーベース ISA マイクプリアンプの音波特性をモデリングできます。音質の良いマイクで録音すると、ボーカルや多くの音響機器で最も必要とされる重要な中高周波数帯域 (中高音域) の透明性と明瞭性が向上します。

一部の Scarlett モデルでは、フロントパネルからも AIR を選択できます。AIR 機能を搭載した各チャンネルは、フロントパネルに黄色の **AIR** LED を備えており、AIR が選択されると点灯します。

デバイス設定

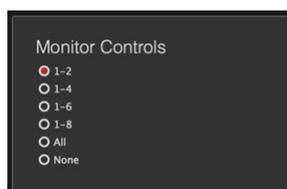
歯車アイコン  をクリックすると、画面の左側から Device Settings ペインが表示されます。ペインを閉じるには、このアイコンを再度クリックします。Device Settings ペインを使用すると、ハードウェアに対してさまざまなグローバル設定を行うことができます。この設定は、変更するまで有効です。Scarlett 18i20 では、このペインは次のように表示されます：



モニターコントロール

従来型のロータリーコントロールは、マスターモニタリングボリュームを調整する際に非常に便利 (かつ伝統的) です。Scarlett インターフェイスは、フロントパネルに **MONITOR** 調整つまみ (コントロール) を備えています。ただし、18i20 および 18i8 では、Focusrite Control を使用してさらに詳細な設定を行うことができます。

通常 (すなわち、デフォルトでは)、MONITOR コントロールは、Monitor Output 1 および 2 のレベルを調整します。また Mute および Dim の操作も行えます。Scarlett の他の出力のいくつかをセカンドリスピーカー用に (ニアフィールド、LCR やサラウンド環境など) に使用する場合、ロータリーコントロール、Mute、DIM スイッチを制御できるように割り当てることも可能です。Scarlett 18i20 のインターフェイスには、フロントパネルに 物理的な Mute および DIM スイッチがあります。



選択例:

- 1-2 – Monitor Output 1 & 2 (デフォルト設定)
- 1-4 – Monitor Output 1 & 2 および Line Output 3 & 4
- 1-6 – Monitor Output 1 ~ 4 および Line Output 5 & 6 – Scarlett 18i20 のみ
- 1-8 – Monitor Output 1 ~ 4 および Line Output 5 ~ 8 – Scarlett 18i20 のみ
- All – Monitor Output 1 ~ 4 および Line Output 5 ~ 10 – Scarlett 18i20 のみ
- None – ローターリーコントロールは無効、出力レベルは、ソフトウェアのフェーダーで制御可能

注記: 出力 7 ~ 8 および 9 ~ 10 は、ヘッドフォン出力と共有されているため、それらをモニターコントロールに割り当てるとヘッドフォン出力に影響を与えます。

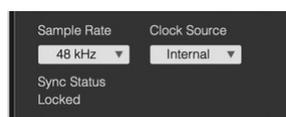
Output Routing ページの Output タブでは、ハードウェアのロータリーコントロールに割り当てられた出力に対してフェーダーのつまみが緑色になります。これは、スクリーン上のフェーダーが操作不可となり、それらの出力レベルを機器のフロントパネルから調整する必要があることを示しています。ただし、スクリーン上のフェーダー位置、Mute および Dim のステータスはハードウェアの調整つまみの操作に反映されます。

スピーカーの切り替え

Scarlett 18i8 および 18i20 は、スピーカーの切り替え機能に対応しています。この機能を使用すると、二組のモニタリングスピーカーを非常に簡単に切り替えることができます。

スピーカー切り替えを使用するには、まず **Speaker Switching > Enable** の順にクリックしてから、メインページの上で **MAIN** または **ALT** を選択します。Scarlett 18i20 では、インターフェイスのフロントパネルからも **ALT** ボタンを選択できます。ALT が選択されると、**ALT LED** が点灯します。**MAIN** を選択すると **ALT** 出力はミュートになり、ALT を選択すると MAIN がミュートになります。Speaker Switching を無効にすると、**MAIN** 出力と **ALT** 出力は両方共ミュートになります。また、ロータリー **MONITOR** コントロールに割り当てられている出力が他にある場合はその出力もミュートになります。これは、安全機能です。必要に応じてそれらの出力のミュートを解除してください。

サンプルレート

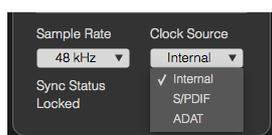


Scarlett インターフェイスは、以下の 6 つのどのサンプルレートでも動作することが可能です: 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、および 192 kHz デフォルトのサンプルレートは 48 kHz です。必要に応じて、代替サンプルレートを選択してください。高いサンプルレートを使用すると、一般的に利用可能なチャンネルの総数は減少します。詳細については、インターフェイスのユーザーガイドを参照してください。

重要

オプティカル入力、176.4/192 kHz のサンプルレートが使用される場合には無効となります。これらのサンプルレートでは、カスタムミックスも無効になります。

クロックソース

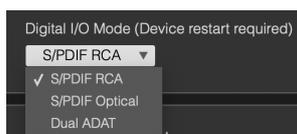


相互に接続されたデジタルオーディオ機器は、常に同じ基準クロックソースを使用しなければなりません。Scarlett インターフェイスでは、以下の3つのソースから同期することが可能です。

- **Internal** – 内部的に生成された基準クロック。デフォルトでは、これが選択されています。
- **S/PDIF** – S/PDIF IN コネクタの任意の信号に組み込まれたクロック信号。(Scarlett 18i8 または 18i20 では、S/PDIF は、RCA コネクタまたはオプティカルポートのいずれかに適用できます。S/PDIF の受信にオプティカルポートを使用する場合には、接続している機器からの信号にクロック信号が組み込まれていることを確認してください。)
- **ADAT** – OPTICAL IN コネクタの任意の信号に組み込まれたクロック信号

どのソースを選択する場合でも、クロック信号は Scarlett の **WORD CLOCK OUT** リアパネル BNC ソケットで利用できるため、他のデジタル機器との同期が可能です (18i20 のみ)。

デジタル入力



Scarlett モデル 18i8 および 18i20 には、S/PDIF および/または ADAT モードの使用方法を決定するために利用できる追加のオプションがあります。

重要

お使いのインターフェイスは、デジタル入力の設定を変更後に、入力の再構成を実行するために、再起動 (電源のオン/オフ) をする必要があります。

18i8 のみ – S/PDIF 音源: このモデルは、S/PDIF 信号を RCA コネクタまたはオプティカル ADAT 入力ポートのいずれかで受信します。オプティカルポートが S/PDIF の入力に使用されている場合には、ADAT の入力に使用することはできません。また、オプティカルポートは、176.4 および 192 kHz のサンプルレートでは無効になりますのでご注意ください。

18i20 のみ – Digital I/O Mode: このモデルは、3 つの異なるデジタル I/O モードをサポートしています。これにより、インターフェイスの S/PDIF 入出力および 4 つのオプティカルポートの動作状況を確認することができます。使用すべきモードは、**Digital I/O Mode** ドロップダウンから選択します。3 つのモードは以下のとおりです:

- **S/PDIF RCA** – デフォルトのモード: 18i20 は、S/PDIF 信号を同軸コネクタを介して受信します。
- **S/PDIF Optical** – 18i20 で光接続を介して S/PDIF 信号を送受信する場合には、このモードを使用します。S/PDIF をクロックソースとして選択した場合には (上記を参照)、18i20 は、ADAT ポートに光学的に適用されている S/PDIF をクロックソースとして使用します。
- **Dual ADAT** – このモードでは、8 チャンネルの音声を ADAT ポートを介して 88.2 または 96 kHz のサンプルレートで送受信できます。このモードでは、すべてのサンプルレートで S/PDIF I/O は無効になり、RCA コネクタを使用しても、オプティカルポートを使用しても利用できません。

詳細については、Scarlett 18i20 ユーザーガイドの「デジタル I/O モード」セクションを参照してください。

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関する質問がある場合には、Focusrite Help Centre サイト、support.focusrite.com/ にアクセスしてください。このサイトでは多数のトラブルシューティング例を紹介しています。

著作権表示と法定通知

Focusrite は、登録商標です。Focusrite Control および Scarlett は、Focusrite Audio Engineering Limited の商標です。

その他すべての商標および商品名は、それぞれの所有者の財産です。

2019 © Focusrite Audio Engineering Limited. 禁無断転載。